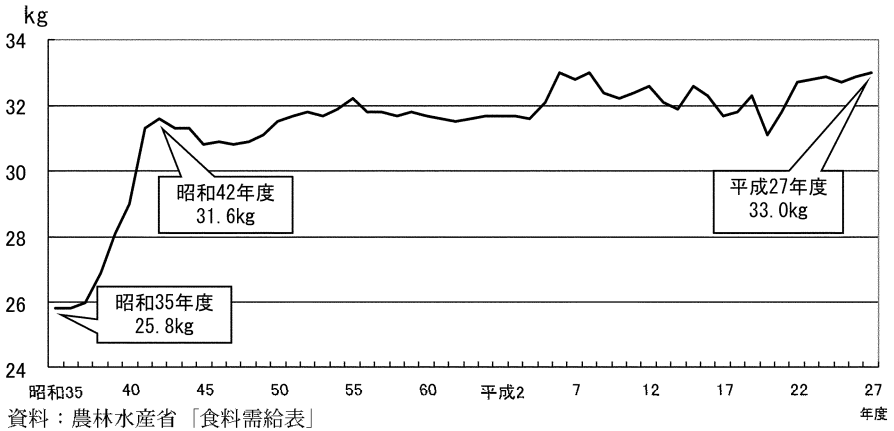
図１　食糧用小麦の消費量の推移（１人１年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」

注：平成27年度の数値は概算値である。

表１　食糧用小麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年度比
平成22	555	99%
23	570	103%
24	608	107%
25	525	86%
26	606	115%
27	568	94%
28見込み	571	101%

29年度見通し
572万トン
（過去７か年平均）

１－２　国内産食糧用小麦の流通量

(1)　国内産食糧用小麦の供給量（当年産の小麦のうち、生産者から実需者に引き渡される数量）

平成29年産の国内産食糧用小麦の供給量(注1)は、平成28年８月の民間流通連絡協議会において報告された平成29年産の作付予定面積（209千ha）に、過去５か年（平成24年産から平成28年産まで）の10ａ当たりの収量のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値（399kg）を乗じ、さらに、食糧用供給割合（98.2%）(注2)を乗じて、82万トンと見通します（表２）。

（注１）は種前契約に基づき、生産者から実需者に引き渡される数量である。

（注２）当年産のうち、食糧用として生産者から実需者に引き渡される割合（それ以外は、種子用、規格外等）。平成29年産については、過去５か年（平成24年産から平成28年産まで）のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値である。

(2)　国内産食糧用小麦の流通量（前年産と当年産の食糧用小麦のうち、当年度内に市場に流通する量）

平成29年度の国内産食糧用小麦の流通量は、平成29年産の国内産食糧用小麦の供給量に、年度内供給比率(注3)を乗じ、さらに、平成28年産国内産食糧用小麦の在庫量を加えて、82万トンと見通します（表２）。

（注３）当年産の供給量のうち、当年度内に生産者から実需者に引き渡される数量の割合。平成28年産について、実需者から提出された平成28年産麦の購入計画から算出し、平成29年産については、過去最大の生産量となり年度内供給比率が例外的に低くなった平成27年産を除いた直近３か年（平成24年産から平成26年産まで）の実績値の平均値としている。

表２　国内産食糧用小麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年産	食糧用小麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越（在庫） ①－②
平成24	81	38	46.7%	43
25	77	28	36.9%	48
26	81	33	40.8%	48
27	95	27	28.5%	68
28見込み	72	24	33.7%	48
29見通し	82	34	41.5%	
		29年度流通量見通し		82

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

１－３　米粉用国内産米の流通量

平成28年産の米粉用米の供給量（取組計画認定数量）は1.8万トン、持越在庫は0.5万トンと見込まれます。

米粉用米は、市場規模がまだ小さく、平成29年産の米粉用米の供給量等を現段階で予測することは困難であることから、平成29年度の米粉用国内産米の流通量は、平成29年度の供給量、出回り比率及び在庫量のいずれも、平成28年度と同数を見込み、平成27年産以前の米粉用米在庫の使用量0.5万トンと合わせ、2.3万トンと見通します（表３）。

表３　米粉用国内産米の流通量の推移

（単位：万トン）

年　　産	米粉用米の供給量 ①	年度内出回り比率 ②	米粉用米の年度内供給量 ①×②	次年度繰越（在庫）
平成27年産以前の米粉用米在庫使用量				0.5
28	1.8	75.0%	1.3	0.5
29見通し	1.8	75.0%	1.3	0.5
	29年度流通量見通し			2.3

注１）平成28年産の供給量は取組計画認定数量。

注２）出回り比率は、新米の出回り時期を踏まえ、前年産が当年４～６月、当年産が７月～翌年３月までとして算出したものである。